

# 報道資料

平成24年3月15日（木）

件名 外務大臣政務官・防衛大臣政務官の来庁について  
概要 このことについて、下記のとおりお知らせします。

## 記

1. 日時：平成24年3月15日（木）16時30分～17時00分
2. 場所：政策審議室
3. 来庁者：外務大臣政務官 加藤 敏幸（かとう としゆき）  
防衛大臣政務官 神風 英男（じんふう ひでお）
4. 応対者：岩国市長 福田 良彦（ふくだ よしひこ）  
岩国市議会議長 松本 久次（まつもと ひさつぐ）  
岩国市議会副議長 貴船 斉（きふね ひとし）

## 5. 市長コメント

本日は、在沖縄海兵隊の岩国飛行場の追加的な移転について、外務大臣政務官及び防衛大臣政務官から説明をいただいた。

まず、加藤外務大臣政務官から、「（3月）8日に行われた局長級協議において、米側に対し、日本政府としては、岩国への在沖縄海兵隊の追加的な移転を地元をお願いするつもりはない旨改めて明確に伝えたところ、米側から、日本政府の立場を理解した、米国政府としては、空母艦載機の厚木から岩国への移駐が極めて重要であるとする旨の回答があった。」また、「これをもって、海兵隊を岩国に追加的に移転させることにはならないことが確認された。」との説明がありました。

さらに、「玄葉外務大臣が申し上げたとおり、厚木飛行場の空母艦載機の移駐については、着実に進めていきたいと考えている。愛宕山用地の売却について、ご理解とご協力を賜りたい。」旨の説明がありました。

神風防衛大臣政務官からは、在沖縄海兵隊の岩国飛行場の追加的な移転については、外務大臣政務官と同様の認識を示された上で、「防衛省としても、田中防衛大臣が申し上げたとおり、『これ以上の負担増は認められない』という米軍再編に対する山口県及び岩国市の考えについては十分に理解しており、これ以上の負担増をお願いする考えはない。」また、「市長のご理解を得て、今年度中に愛宕山用地を買い取りたいと考えている。」旨の説明がありました。

これに対して、私からは、「在沖縄海兵隊の岩国飛行場への追加的な移転に係る米側の回答については承知した。」旨、伝えるとともに、沖縄の再編案が切り離されたことから、『再編計画が統一的なパッケージの考え方が変更されるのか』、『県・市の基本スタンスを尊重して対応するのか』について懸念があり、県知事とも協議した上で、改めて文書で確認したいと考えていることなどをお伝えさせていただきました。

また、「愛宕山用地の売買契約の留保解除については、国からの文書回答をいただいた上で、留保を解除するのか判断したいと思う。」とお伝えさせていただきました。

海上自衛隊の残留については、防衛大臣政務官から「私としては、市の要望を重く受けて止めており、市の意向に沿えるように全力を尽くしていく考えである。」との大変前向きな回答があり、残留の実現に向けた日米協議の更なる進展を期待したい。

担当課	岩国市総合政策部基地政策課	TEL0827-29-5024／Fax0827-21-3572
	岩国市都市建設部拠点整備推進課	TEL0827-29-5164／Fax0827-24-4207
	岩国市議会事務局	TEL0827-29-5190／Fax0827-21-1001